

健康福祉委員会資料

(病院局関係)

1 所管事務の調査（報告）

(2) 厚生労働省からの要請に対する井田病院の再検証について

資料1 厚生労働省からの要請に対する井田病院の再検証について

参考資料1 川崎市立井田病院公的医療機関等2025プラン

参考資料2 井田病院での再検証関連データ

病院局

令和2年1月31日

病 院 局
令和 2 年 1 月 3 1 日

厚生労働省からの要請に対する井田病院の再検証について

1 経過

令和元年9月26日	厚生労働省「2025年に向けて役割・機能の再検証を要請する公立・公的医療機関等」を公表
令和元年11月19日	令和元年度第2回川崎地域地域医療構想調整会議開催 ・神奈川県から今後の議論の進め方やスケジュール、再検証のポイント等の提示 ・意見交換を実施
令和元年12月12日	神奈川県から第3回会議に向けて自院の再検証作業等の依頼
令和2年1月17日	厚生労働省から都道府県宛て「公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について」の要請
令和2年1月28日	神奈川県から井田病院宛て「公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について」の要請

2 再検証の結果

(1) 当院を取り巻く地域医療の状況

- ア 圏域別患者数は3つの医療圏を跨いで、川崎南部：川崎北部：横浜で3：4：3の割合となっており、かつ、いずれの医療圏においても医療需要に直結する総人口・老年人口のピークは15年から40年後
- イ 当院の一般病床稼働率は、平成29年度81.9%、平成30年度83.5%、令和元年度上半期86.8%と上昇しており、今後も医療需要の増加により更なる上昇が見込まれる。

(2) 既に実施した取組

- ア 改築に合わせて一般病床42床の病床削減（平成24年度）
⇒削減病床を活用して、政策医療として「重症患者救急対応病床（61床）」の他院への増床に活用
- イ 地域医療構想の実現と地域包括ケアシステムの構築を目指し、将来不足が見込まれる病床機能の強化や診療機能の分化・連携、集約化の実施

- 急性期病床 45 床を回復期へ転換し、地域包括ケア病棟を整備（平成 28 年度）
- 脳神経外科及び呼吸器外科入院診療の川崎病院への集約化（平成 29 年度）、さらに血液内科入院診療の川崎病院への集約化も検討中
- 在宅療養後方支援病院の届出（令和元年 7 月）

（3）地域の医療ニーズを踏まえ担っている機能

- ア 救急告示病院として、特に後期高齢者を中心に誤嚥性肺炎や尿路感染症など、一般的に入院期間が長期化しやすく採算が取りにくいとされる患者の積極的な受入れ
- イ 地域がん診療連携拠点病院として、同一圏にある他の拠点病院との役割分担と相互連携のもと、緩和ケア医療や在宅医との 24 時間連携、ロボット支援手術の導入など、地域のがん医療水準の向上に貢献
- ウ 市内唯一の結核病床（40 床）を有し、横浜圏からの患者受入れも含め結核患者への透析医療にも対応
- エ 災害協力病院として、横浜市も含む地域の医療機関との合同防災訓練等に継続的に取り組み、昨年台風 19 号の際には、高台に立地する水害に強い地の利を生かした災害医療機能を発揮
- オ 基幹型臨床研修病院あるいは新専門医制度の基幹施設等として、多くの初期臨床研修医や専攻医を受け入れ、地域医療水準の向上に貢献

以上のとおり、今後も医療需要の増加が見込まれる中、井田病院は地域に根差して必要な医療を提供しており、地域の中核病院として重要な役割を担っていることから、現時点では現状の機能を維持することとし、今回の厚生労働省の要請に対する具体的対応方針の見直しは行わない。

3 今後の対応

令和元年度第 3 回川崎地域地域医療構想調整会議（令和 2 年 2 月 12 日開催予定）において、再検証の結果を説明し、現時点では見直しは行わないことについて合意を得ていく。

川崎市立井田病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 11月 策定
(平成30年 6月 更新)

【川崎市立井田病院の基本情報】

医療機関名：川崎市立井田病院

開設主体：川崎市

所在地：川崎市中原区井田 2 - 2 7 - 1

許可病床数：

（病床の種別）一般病床 3 4 3 床、結核病床 4 0 床

（病床機能別）高度急性期病床 8 床、急性期病床 2 9 0 床、回復期病床 4 5 床

稼働病床数：

（病床の種別）一般病床 3 4 3 床、結核病床 4 0 床

（病床機能別）高度急性期病床 8 床、急性期病床 2 9 0 床、回復期病床 4 5 床

診療科目：（平成 3 0 年 4 月 1 日時点）

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病内科、腎臓内科、神経内科、感染症内科、人工透析内科、肝臓内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、アレルギー科、リウマチ科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科

職員数：（平成 3 0 年 4 月 1 日時点）

- ・ 医 師： 5 7 名
- ・ 看護職員： 3 4 0 名
- ・ 専門職※： 7 6 名
- ・ 事務職員： 2 8 名

※専門職とは、医師、看護職員、事務職員以外の職員とする。

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(1) 地域の人口及び高齢化の推移

- ・総人口は、平成22年(2010年)の60.5万人から、平成37年(2025年)には62.4万人(平成22年(2010年)比3.1%増)に増加し、平成37年(2025年)をピークに、平成52年(2040年)には60.7万人に減少
- ・75歳以上の人口は、平成37年(2025年)には、平成22年(2010年)比1.56倍、平成52年(2040年)には1.72倍に増加

(2) 地域の医療需要推移

〈入院及び在宅医療等の医療需要〉

- ・平成37年(2025年)には、平成25年(2013年)比1.35倍、平成52年(2040年)には1.56倍に増加
- ・75歳以上の患者数は、平成37年(2025年)には平成25年(2013年)比1.58倍に増加するが、15歳未満の患者数は年々減少し、15歳～64歳の患者数は平成42年(2030年)をピークに減少

〈入院医療需要〉

- ・入院医療需要は、平成37年(2025年)に平成25年(2013年)比1.26倍に増加し、平成52年(2040年)には、同年比1.47倍に増加。病床機能別では、平成37年(2025年)には、平成25年(2013年)比で高度急性期が1.23倍、急性期が1.28倍、回復期が1.31倍、慢性期が1.13倍に増加

〈在宅医療等の医療需要〉

- ・在宅医療等の医療需要は、平成25年(2013年)と比較すると平成37年(2025年)には、1.4倍に増加し、平成52年(2040年)には、同年比1.62倍に増加。在宅医療等の医療需要の内、居宅等において訪問診療を受ける患者数は、平成37年(2025年)には、平成25年(2013年)比で1.34倍に増加

(3) 4機能ごとの医療提供体制の特徴

〈高度急性期・急性期〉

- ・7:1、10:1のレセプト出現比、ICU、救命救急などのレセプト出現比は高い

〈回復期〉

- ・回復期リハ、13:1、15:1のレセプト出現比は低い

〈慢性期〉

- ・療養病床基本料のレセプト出現比は低い

(4) 地域の医療需給特徴

〈高度急性期・急性期〉

- ・86.5%の患者が入院医療を構想区域内で完結している

〈回復期〉

- ・58.6%の患者が入院医療を構想区域内で完結している
- ・横浜の北部に28.6%流出している

〈慢性期〉

- ・38.0%の患者が入院医療を構想区域内で完結している
- ・横浜の北部に14.6%、相模原に13.9%、川崎北部に11.4%流出している

② 構想区域の課題

- ・将来において不足する病床機能の確保及び連携体制の構築
- ・地域包括ケアシステムの推進に向けた在宅医療の充実
- ・将来の医療提供体制を支える医療従事者の確保・養成

③ 自施設の現状

(1) 基本理念

川崎市立井田病院は、自治体病院として、市民に信頼され、市民が安心してかかれる病院づくりを目指します。

(2) 運営方針

1. 川崎市立井田病院は、公立病院として地域住民の医療の要望に応えます。
2. 地域の病院や診療所とのつながりを大切にします。
3. 成人疾患を中心とする専門性の高い医療を行います。
4. 市内唯一の結核病棟を有する病院としての充実した機能の整備に努めます。
5. 地域におけるがん診療拠点病院としての役割を果たします。
6. かわさき総合ケアセンターでは、医療・福祉・保健が連携して、緩和ケアや在宅医療を行います。
7. 急に具合が悪くなった方のために、救急医療の体制の強化に努めます。
8. 井田山の美しい自然環境を活かし、ボランティア活動を通じて、地域の医療と文化のより所となります。
9. 医療従事者のより良い研修の場となるように、職員各人が医療水準の向上に努めます。
10. 病院経営の健全化に努めます。

(3) 診療実績（平成29年度）

届出入院基本料： 7対1看護配置基準

平均在院日数： 16.9日

病床稼働率： 79.2%

(4) 職員数：（平成30年4月1日時点）

- ・ 医師： 57名
- ・ 看護職員： 340名
- ・ 専門職※： 76名
- ・ 事務職員： 28名

(5) 特徴、担う政策医療

南部地域の中核病院・地域がん診療連携拠点病院として、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療を担うほか、市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者への透析の対応も行っています。また、臨床研修指定病院等として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上にも寄与しています。

(6) 他機関との連携

地域における医療機能の分化に伴い、中核病院として求められる高度・特殊な医療を確実に提供していくため、かかりつけ医への受診の啓発に努め、地域医療機関との連携を推進します。また、他の医療機関と連携しながら、次のような役割を担っています。

- ・ 地域がん診療連携拠点病院
- ・ エイズ治療拠点病院
- ・ 救急告示病院
- ・ 災害協力病院

④ 自施設の課題

近隣に、「地域がん診療連携拠点病院」、「地域医療支援病院」、「救命救急センター」などの医療機能を有する病院がある中で、井田病院の立地状況・交通環境を踏まえ、川崎南部保健医療圏において井田病院が担う医療機能を検討する必要があると認識しています。

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

- ・急性期医療や救急医療に加え、井田病院が担ってきた結核医療、緩和ケア、在宅医療等も継続的かつ安定的に提供できるよう取組を推進します。
- ・「住み慣れた地域での医療、介護等の提供」が効率的、効果的に行われるよう、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を推進します。
- ・救急やがん医療など、今後増加が見込まれる医療機能の充実・強化に向けた体制整備を進めます。
- ・地域の中核病院として、診療所等では提供が困難な高度治療や検査、手術などを必要なときに迅速かつ効果的に提供するため、医療機関相互の機能分担と連携を進める「地域医療連携」の取組を、より一層推進します。
- ・災害時に必要な医療を迅速かつ確実に提供できるよう、防災マニュアルの見直しや、災害・防災訓練等の充実を図ります。
- ・本市の総人口が増加する中、地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくため、必要な医療職の確保・育成に継続して取り組みます。

② 今後持つべき病床機能

- ・井田病院は、地域の中核病院として、急性期医療に取り組むとともに、地域包括ケア病棟等における入院中のリハビリテーションの充実による、早期在宅・施設等への移行支援などの回復期機能の充実についても、検討していきます。

③ その他見直すべき点

- ・かわさき総合ケアセンターによる在宅療養に関わる機能の更なる活用など、市が目指す地域包括ケアシステムの構築に寄与する取組を一層推進していきます。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年4月1日)		将来 (2025年度)
高度急性期	8床	→	8床
急性期	290床		290床
回復期	45床		45床
慢性期	—		—
(合計)	343床		343床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○地域医療構想調整会議での協議等を踏まえながら、担うべき医療機能の検討	○本プラン策定	<p>集中的な検討を促進 2年間程度で</p>
2018年度	○地域医療構想調整会議での協議等を踏まえながら、担うべき医療機能の検討	○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る	
2019～2020年度			<p>第7期 介護保険 事業計画</p> <p>第7次 医療計画</p>
2021～2023年度			<p>第8期 介護保険 事業計画</p>

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	—	→	—
新設		→	—
廃止	—	→	
変更・統合	—	→	—

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床利用率：87.2%
- ・ 紹介率：50.0%以上
- ・ 逆紹介率：70.0%以上

経営に関する項目

- ・ 給与費対医業収益比率：57.9%
- ・ 委託費対医業収益比率：14.2%

※策定済みの公立病院改革プランにおける平成32年度目標値

【4. その他】

(自由記載)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

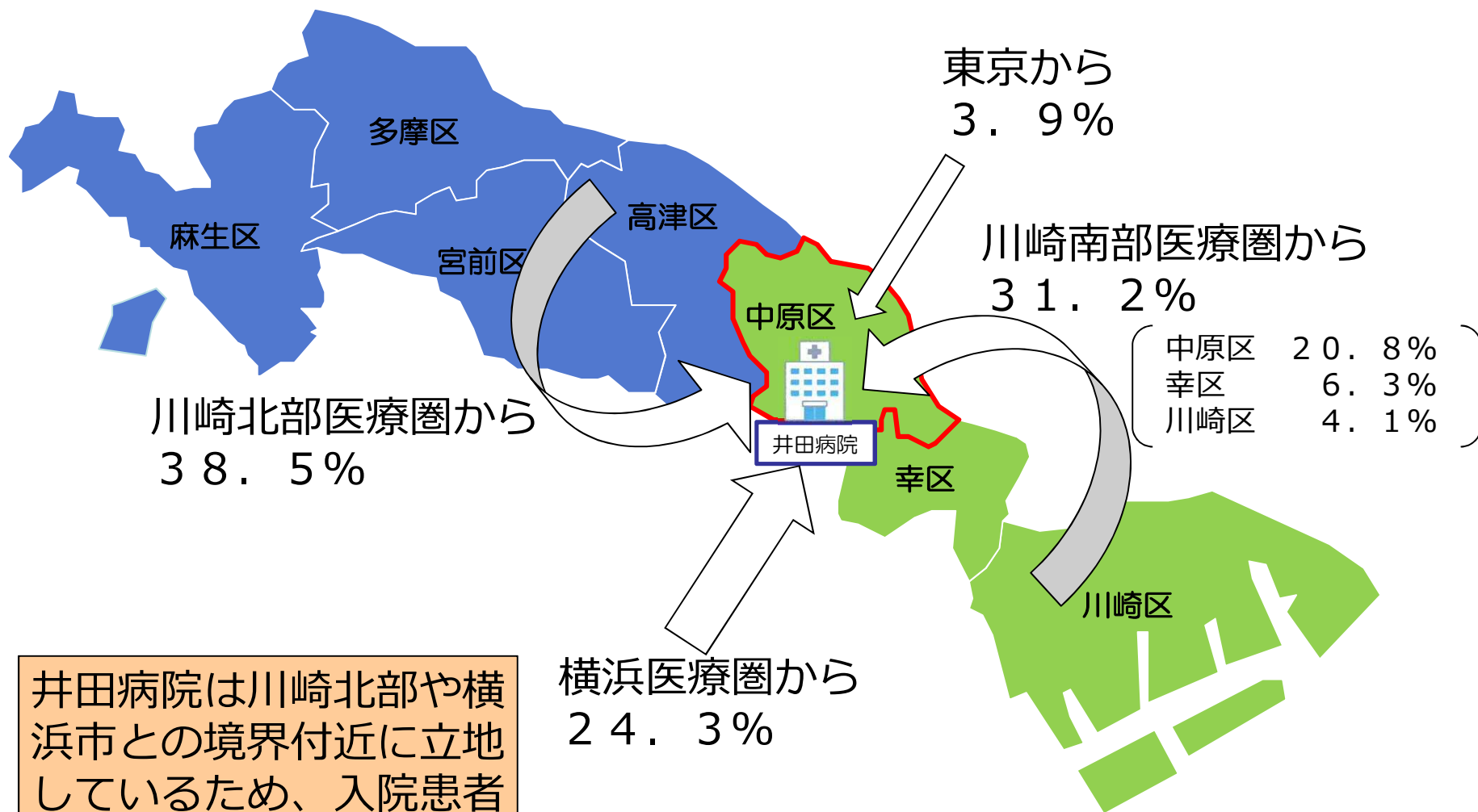
川崎市

井田病院での再検証関連データ



病院局

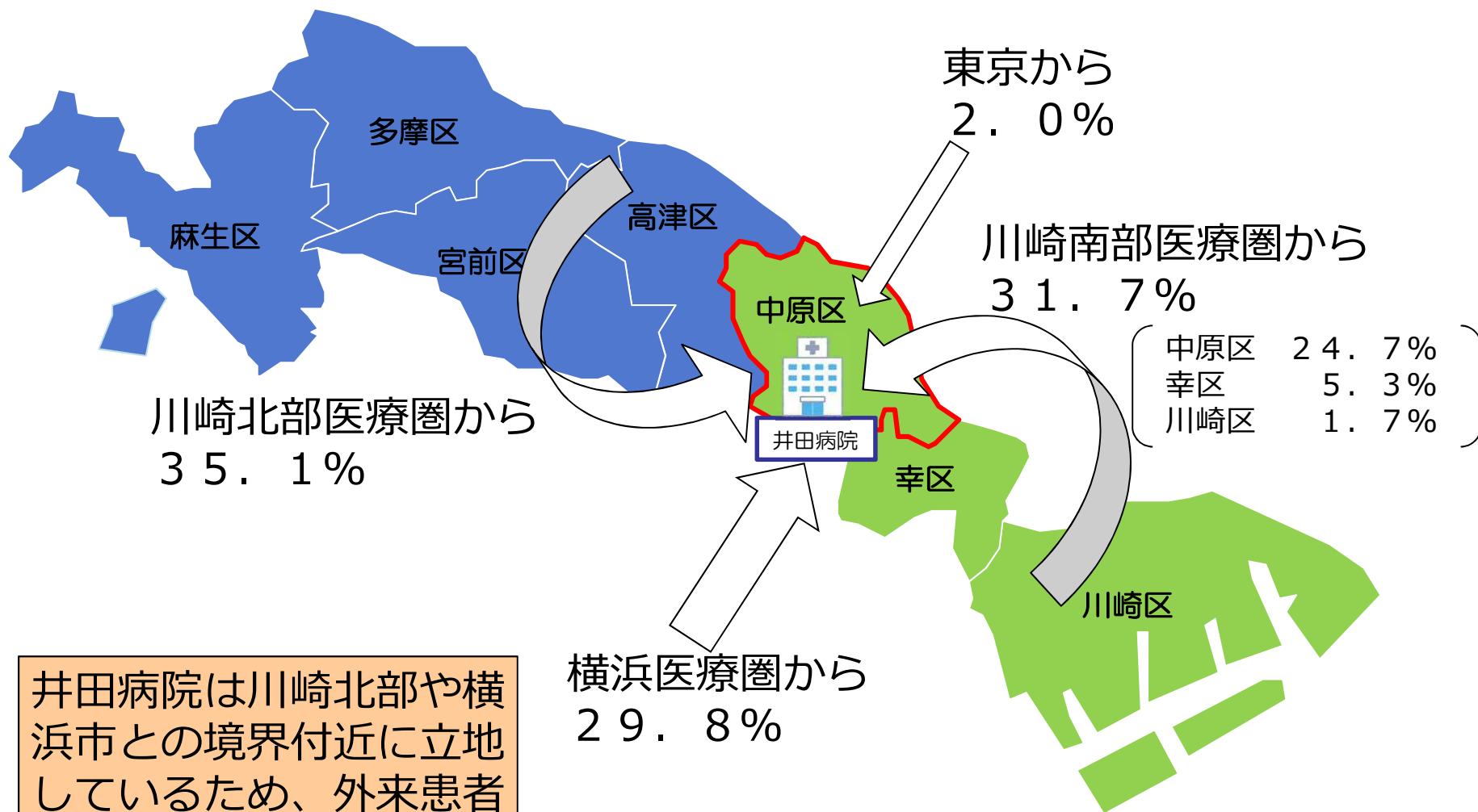
圏域別患者割合(入院)



井田病院は川崎北部や横浜市との境界付近に立地しているため、入院患者の約7割が川崎南部医療圏の外から来ている。

(注)
 ・2018年度実績値
 ・出典：川崎市立井田病院年報 第48号 (2018年度版)

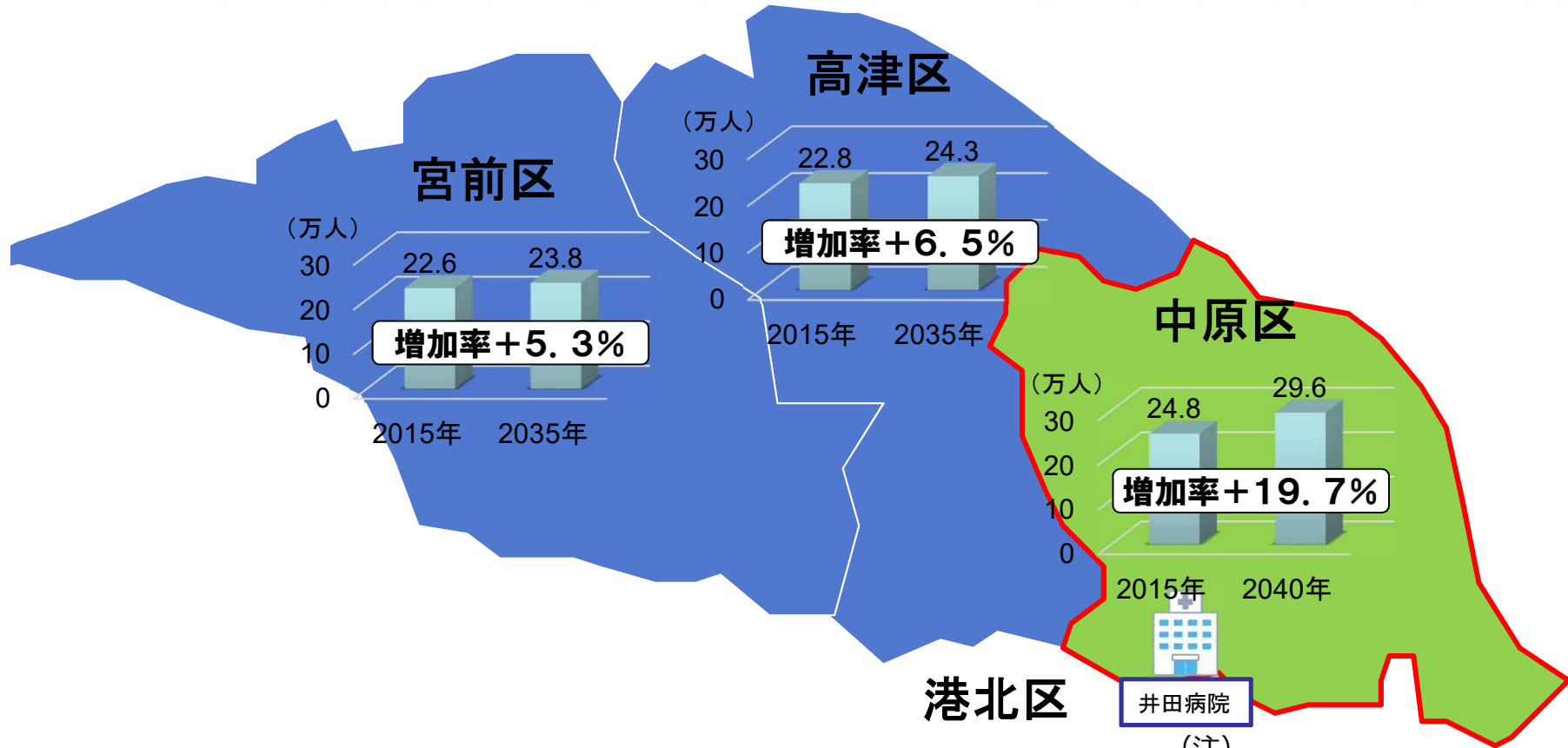
圏域別患者割合(外来)



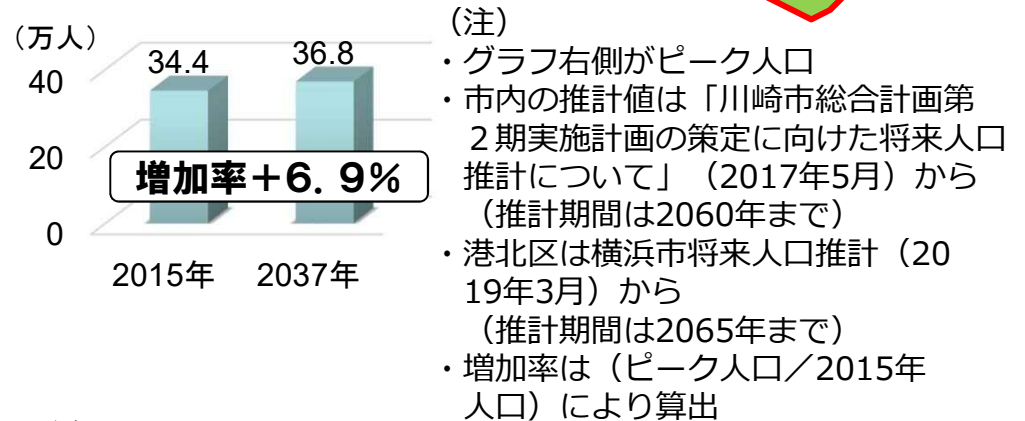
井田病院は川崎北部や横浜市との境界付近に立地しているため、外来患者の約7割が川崎南部医療圏の外から来ている。

(注)
 ・2018年度実績値
 ・出典：川崎市立井田病院年報
 第48号(2018年度版)

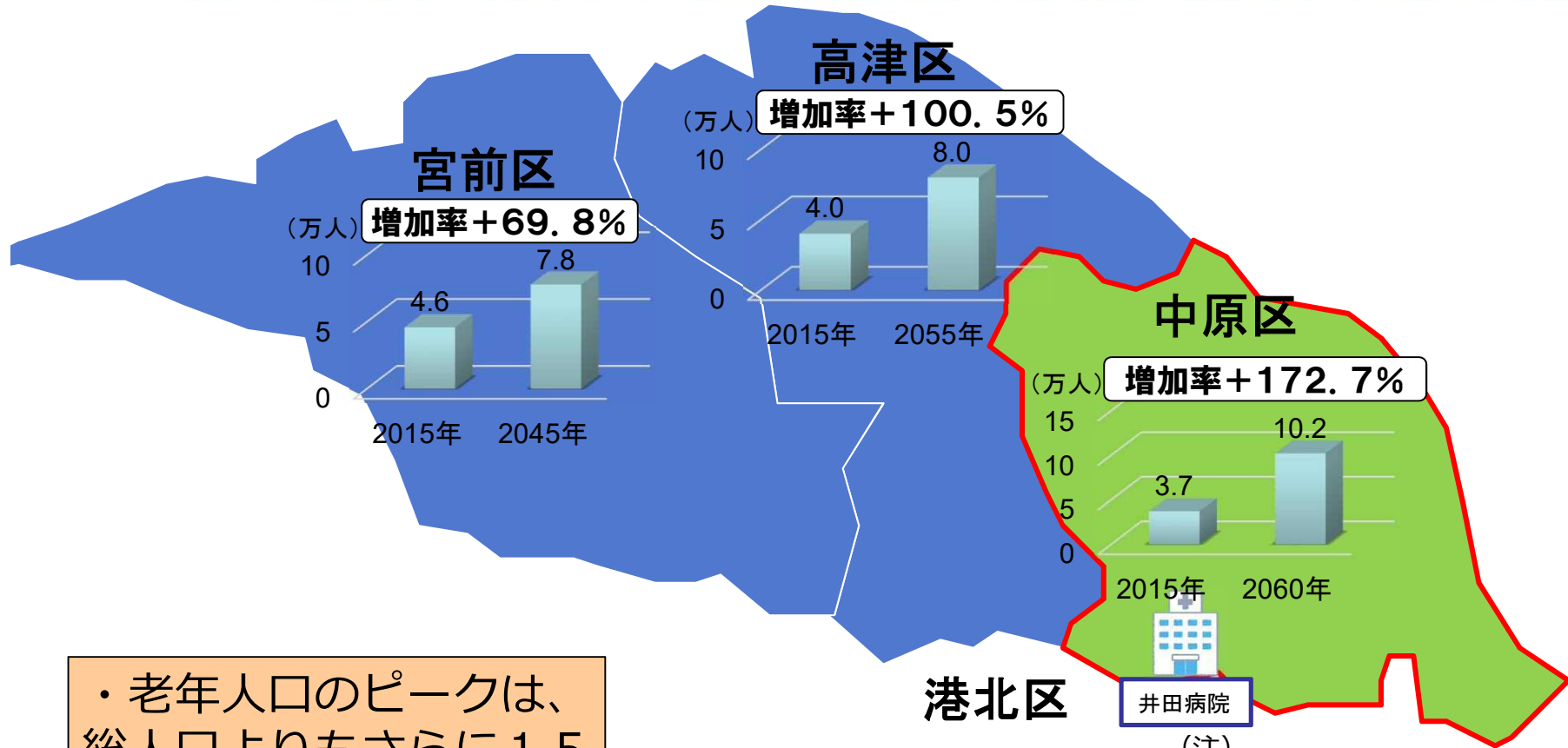
将来人口推計(総人口のピーク)



井田病院の周辺地域は、
今後も20年程度人口増加が続くことが予想されている。



将来人口推計(老年人口のピーク)



・ 老年人口のピークは、総人口よりもさらに15～20年程度先となっている。
 ・ 特に中原区は推計期間の最後まで増加が続く。



(注)
 ・ グラフ右側がピーク人口
 ・ 市内の推計値は「川崎市総合計画第2期実施計画の策定に向けた将来人口推計について」(2017年5月)から(推計期間は2060年まで)
 ・ 港北区は横浜市将来人口推計(2019年3月)から(推計期間は2065年まで)
 ・ 増加率は(ピーク人口/2015年人口)により算出

(1) 市内のがん診療連携拠点病院

病院	医療圏	指定時期
市立井田病院	南部	2006年8月
聖マリアンナ医科大学病院	北部	2007年2月
関東労災病院	南部	2016年4月

同一医療圏での複数指定となるが、井田病院との「相互連携」が高く評価され、関東労災病院の指定に至った。

(2) 関東労災病院との役割分担

がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会（2016年1月29日）

市立井田病院

「緩和ケア」を軸とした
「在宅ケア」「地域連携」の推進

相互連携

関東労災病院

多くの患者の受け入れ
地域のニーズに合わせた幅広い取組み

同医療圏の既指定病院である川崎市立井田病院と関東労災病院の役割分担や相互連携を図ることで、患者が個々のニーズに応じて、切れ目のない治療・支援をより身近な地域で受けることができるようになることが期待され、当該医療圏のみならず、隣接する医療圏のがん医療水準が量・質ともに向上し、地域連携の強化が推進される。

(3) ロボット支援手術の導入

がん診療連携拠点病院の高度医療として、ロボット支援手術を導入している。（前立腺がん・胃がん）

ダ・ヴィンチ



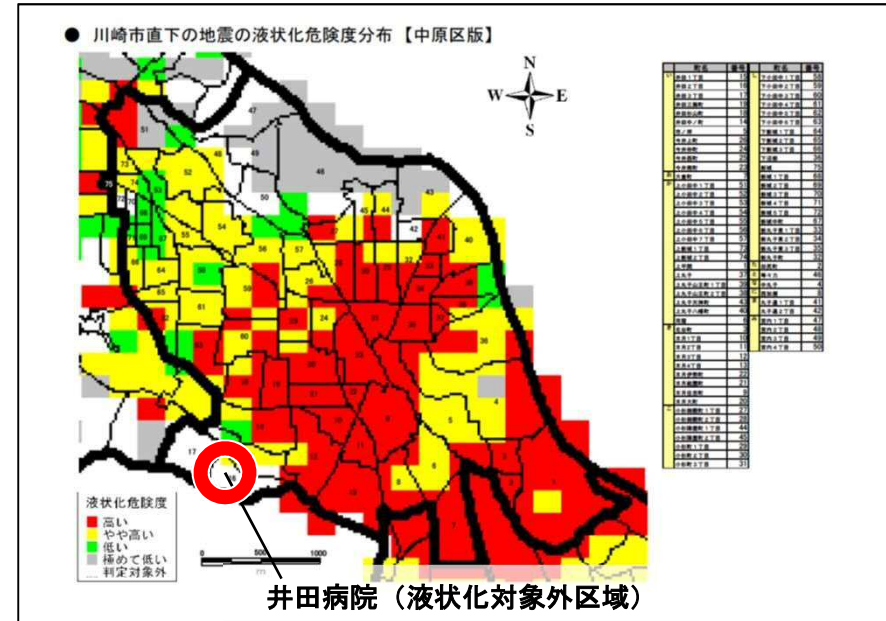
(1) 高台に立地する水害に強い災害協力病院

井田病院は、高台に立地していることから、洪水ハザードマップや液状化危険度分布において浸水・液状化の想定区域外にあり、台風や集中豪雨などの風水害や地震による液状化発生時においても、災害協力病院としての役割を果たすことができる。

【川崎市洪水ハザードマップ（中原区）】



【液状化危険度分布（中原区）】



(2) 災害医療訓練での位置付け

2019年9月7日の大規模地震時医療活動訓練では、液状化のリスクがないということで、川崎市中部DMAT活動拠点本部と市外へのヘリ搬送拠点（ミニSCU）が、災害協力病院である井田病院内に設置された。



病院災害対策本部



ヘリ離発着訓練

(3) 港北区医師会との連携

港北区の日吉や綱島一帯は、横浜市北部の災害拠点病院や災害時救急病院まで鶴見川を挟んで5km以上離れており、災害時には近接する井田病院との連携が不可欠であることから、港北区医師会からの要請に基づき港北区の災害医療訓練に参加するなど、災害医療においても圏域を越えた役割が期待されている。



医療救護隊による通信拠点の設置

(4) 令和元年台風19号での対応

2019年10月12日の台風19号では、川崎・幸・中原・高津・多摩の5区の洪水浸水想定区域に避難指示が発令され、他病院からC P A蘇生後患者（呼吸器使用中）2名の受入要請があり、井田病院で受け入れた。